

午 後

問 題

◎指示があるまで開かないでください。

老人福祉論

問題 81 老人福祉等にかかわる法律の理念に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 老人福祉法では、国民は、年齢、心身の状況等に応じ、職域若しくは地域又は家庭において、老後における健康の保持を図るための適切なサービスを受けられる旨、規定している。
- B 高齢社会対策基本法では、国民が生涯にわたって社会を構成する重要な一員として尊重され、地域社会が自立と連帯の精神に立脚して形成される社会が構築されることを基本理念として、規定している。
- C 「高年齢者雇用安定法」では、高年齢者がその希望と能力に応じ、適当な仕事に従事する機会その他の社会活動に参加する機会が与えられるものとするとして規定している。
- D 老人保健法では、老人は老齢に伴って生ずる心身の変化を自覚して、常に心身の健康を保持し、又は、その知識と経験を活用して、社会的活動に参加するよう努めるものとするとして規定している。

(注) 「高年齢者雇用安定法」とは、「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」のことである。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | × | ○ | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 82 平成17年の介護保険法の改正に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 地域支援事業のうち4事業からなる包括的支援事業は地域包括支援センターが実施するが、権利擁護事業については、老人介護支援センターに委託することができる。
- 2 原則として、地域密着型サービスの利用に伴う保険給付は、地域密着型サービス事業者の指定を行った市町村の被保険者に限られている。
- 3 第1号被保険者保険料の特別徴収の対象となる年金に、老齢・退職年金に加えて遺族年金が追加されたが、障害年金は今までどおり対象から外された。
- 4 介護支援専門員が都道府県知事から交付を受けている介護支援専門員証に6年の有効期間が設けられ、有効期間を更新するには更新研修を受けなければならない。
- 5 指定介護予防支援事業者の指定は、地域包括支援センターの設置者の申請により、介護予防支援事業を行う事業所ごとに都道府県知事が行う。

問題 83 老人福祉関連各法における適用年齢等の原則に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 老人福祉法上の特別養護老人ホーム及び養護老人ホームへの入所適用年齢は、65歳以上である。
- 2 老人保健法上の「医療の実施」における適用年齢は、75歳以上の者、及び65歳以上75歳未満の者であって当該市町村長の認定を受けたものである。
- 3 「高齢者虐待防止法」上の「高齢者」とは、65歳以上の者である。
- 4 「高年齢者雇用安定法」上の「高年齢者」とは、65歳以上の者である。
- 5 「ハートビル法」上の高齢者については、特に年齢規定はない。

- (注) 1 「高齢者虐待防止法」とは、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」のことである。
- 2 「高年齢者雇用安定法」とは、「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」のことである。
- 3 「ハートビル法」とは、「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律」のことである。

問題 84 次の記述のうち、認知症の評価尺度として開発されたものとして、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 長谷川式簡易知能評価スケール
- B 柄澤式「老人知能の臨床的判定基準」
- C 鈴木＝ビネー知能検査
- D コロンビア知的能力検査

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問題 85 高齢者介護や老人福祉行政にかかわる資格に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 介護福祉士試験の受験資格は、3年以上介護等の業務に従事した者、又はそれと同等以上の能力を有すると認められる者であって、厚生労働省令で定めるものである。
- B 禁固以上の刑に処せられても、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から、介護福祉士となることができる。
- C 主任訪問介護員は、他の保健・医療・福祉サービスを提供する者との連絡調整や、他の訪問介護員に対する指導監督などを行う者であり、介護福祉士でなければならない。
- D 福祉事務所における老人の福祉に関する相談・調査・指導などのうち、専門的技術を必要とする業務を行う所員は、社会福祉士でなければならない。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	○	○
3	○	×	×	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題 86 介護保険制度における施設（一定の要件に該当する施設を除く。）に関する次の記述のうち、「特定施設」として、法令に定められているものに○，法令に定められていないものに×をつけた場合，その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 養護老人ホーム
- B 有料老人ホーム
- C 軽費老人ホーム
- D 指定介護老人福祉施設

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 87 次の記述のうち，介護保険法に基づき厚生労働大臣が定める福祉用具貸与及び介護予防福祉用具貸与に係る福祉用具の種目として，適切なものに○，適切でないものに×をつけた場合，その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 送風装置又は空気圧調整装置を備えた空気マット
- B 洋式便器の上に置いて高さを補う腰掛便座
- C 取付けに際し工事を伴わない手すり
- D 移動用リフトのつり具の部分

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

(老人福祉論・事例問題)

次の事例を読んで、問題88から問題90までについて答えなさい。

〔事例〕

X市Y町で一人暮らしのA女（76歳）は、要支援1で介護予防通所介護を週1回利用している。

A女は、3年前から地域の指定介護老人福祉施設に入居している夫のB男（81歳）を毎日、家から1キロの道のりを歩いて訪ねることを日課としている。夫妻の一人息子のC男は新幹線で2時間離れた市で教員をしている。A女は、女学校時代の友人と電話のやりとりをするが、地域の住人との付き合いはほとんどない。指定居宅介護支援事業所のA女担当のD介護支援専門員は、最近A女がB男を訪ねて帰った後、その日のうちに電話をしてきて、「これからB男を訪ねます」と一日に何度も訪問を繰り返したり、指定介護老人福祉施設から帰る際に道に迷うことなどが続いているため、C男に電話で面接を行った（問題88）。

1週間後、C男が4か月ぶりにA女に会うと、料理の得意であった人にもかかわらず、調味料の味付けを間違ったような料理になってしまったり、銀行の通帳が見当たらないと言い、狐が来て通帳を盗んでいったと訳の分からない言動が続いた。D介護支援専門員との面接でA女の現状と今後について相談すると、地域包括支援センターを紹介された（問題89）。

C男はD介護支援専門員と一緒に地域包括支援センターを訪ねた。C男は今後のA女の暮らしを支えていく方法についてC男自身がA女を呼び寄せ、家族で同居することを妻と相談したこと、A女がB男と一緒に指定介護老人福祉施設で暮らせるように考えられないか、A女の現状をできるだけ継続するような方向はないものだろうか、と地域包括支援センターのE職員に語った。また、C男はA女の女学校時代の友人が、隣町にあるケアハウスで暮らしており、A女は友人を訪ね便利なところができたと話していたとのことで、ケアハウスの状況についても詳しく知りたいと相談した。地域包括支援センターではE職員を中心にA女の面接と訪問調査を行った上でA女を含めた関係者によるケースカンファレンスを行うことにし、A女、B男の生活をどのように支えるかについて検討が行われた（問題90）。

問題 88 このときのD介護支援専門員の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A A女の在宅一人暮らしをこのまま継続していくときに推測される危険な状況をC男に伝え、なんらかの対応をするよう求めた。
- B A女がB男を毎日何度も指定介護老人福祉施設に訪ねているため、それを止めさせる必要があることをC男に理解させるよう努めた。
- C A女の状況が変わってきていることをC男に分かりやすく伝えながらも、C男の不安を高めないように心掛けた。
- D C男に対して、A女を支えるための幾つかの方法を詳しく紹介した。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 89 C男との面接の準備及び面接時のD介護支援専門員の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A C男に会う前に、指定介護予防通所介護事業所の職員に連絡を取り、A女の最近の状況について情報収集を行った。
- B C男に会う前にB男の入居している指定介護老人福祉施設の相談員に連絡を取り、最近のA女の状況について情報収集を行った。
- C 面接時にA女の認知機能を含めてアセスメントした結果を詳しくC男に説明し、認知症の原因について理解を深めさせることを第一の課題とした。
- D 介護予防通所介護参加時及び指定介護老人福祉施設にB男を訪問している際のA女の行動の変化についてC男に説明し、今後の方策を検討した。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | × | ○ | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 90 ケースカンファレンスに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A A女とB男が指定介護老人福祉施設で一緒に過ごせるようD介護支援専門員が指定介護予防通所介護事業所に依頼した。
- B E職員がケアハウスのサービス内容を前もって調べておき、A女とC男の考えを支援しながらケアハウス選択の可能性について話し合った。
- C A女自身の発言は主観的になるので、指定介護予防通所介護事業所の職員が、A女の代わりに毎日の暮らしの中の楽しみや最近の戸惑いについて説明した。
- D 地域包括支援センター、指定居宅介護支援事業所、指定介護老人福祉施設、指定介護予防通所介護事業所の関係者が、増加する一人暮らし高齢者の地域課題を話し合った。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	×	○	×	○
4	×	○	×	×
5	×	×	○	×

障害者福祉論

問題 91 障害者基本法に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 基本的理念として、「何人も、障害者に対して、障害を理由として、差別することその他の権利利益を侵害する行為をしてはならない」ことが規定されている。
- 2 12月3日から12月9日までの一週間を「障害者週間」とすることが規定されている。
- 3 「障害者の福祉に関する施策を講ずるに当たっては、障害者の自主性が十分に尊重され、かつ、障害者が、可能な限り、地域において自立した日常生活を営むことができるよう配慮されなければならない」ことが規定されている。
- 4 「厚生労働大臣は、中央障害者施策推進協議会の意見を聴いて、障害者基本計画の案を作成しなければならない」ことが規定されている。
- 5 「国及び地方公共団体は、福祉用具及び身体障害者補助犬の給付又は貸与その他障害者が日常生活を営むのに必要な施策を講じなければならない」ことが規定されている。

問題 92 障害分野におけるインクルージョン (inclusion) に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A インクルージョンの理念は、ユネスコが1994年にスペインで「特別なニーズ教育に関する世界会議 (World Conference on Special Needs Education)」を開き、「全ての者の教育 (Education for All)」を主張した、「サラマンカ声明」を出したことから注目された。
- B 障害児の統合教育 (integration) が、アメリカなどでは「投げ捨て (dumping)」と批判され、障害への必要な支援を保障された上で地域の学校に包み込まれて学ぶという、「インクルーシブな教育 (inclusive education)」の考え方が誕生した。
- C 我が国では1995年に、「全日本手をつなぐ育成会」が、知的障害者本人の全国組織として独立したことを契機に団体名の英語表記を、国際組織である「Inclusion International」にならって、「INCLUSION JAPAN」と称したところから、この理念が福祉分野でも広がっていった。
- D 「インクルーシブな教育」とは、障害児だけではなく、外国籍や移民の子どもなど、言語や宗教・文化面での支援を必要とすることも含め、「すべての子どもが包み込まれる教育」を意味している。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	○	×	○

問題 93 平成17年の精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の改正の内容について、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 障害者自立支援法の成立に伴い、身体障害者手帳や療育手帳と同様に、精神保健福祉手帳の交付を受けた者に対する都道府県知事による2年ごとの認定は行わないこととされた。
- B 精神科病院に対する指導監督体制の見直しとして、精神科病院の管理者が改善命令等に従わなかったときは、都道府県知事が、その旨を公表できることとされた。
- C 市町村は、精神保健福祉相談員を置くことができることとされた。
- D 精神障害者の定義における「精神分裂病」という用語が「統合失調症」に改められた。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | × | × |
| 3 | × | ○ | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 94 1982年の国連総会で決議された「障害者に関する世界行動計画」における「リハビリテーション」の定義について、次の文章の空欄A、B、Cに該当する語句の組み合わせとして、正しいものを一つ選びなさい。

「リハビリテーションとは、損傷を負った人に対して、身体的、精神的、かつまた「A」に最も適した機能水準の達成を可能にすることにより、各個人が自らの「B」手段を提供していくことをめざし、かつ「C」プロセスを意味する。」

- | | A | B | C |
|---|-----------------------------|---|---|
| 1 | 社会的――人生を変革していくための――時間を限定した | | |
| 2 | 文化的――社会的環境を改善するための――最適な活動の | | |
| 3 | 文化的――人生を変革していくための――最適な活動の | | |
| 4 | 社会的――社会的環境を改善するための――最適な活動の | | |
| 5 | 社会的――社会的環境を改善するための――時間を限定した | | |

問題 95 障害者運動についての次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 我が国での障害者関係運動は、第二次世界大戦後から全国的団体が結成されたが、まず親兄弟など家族の会から始まり、当事者の会の結成は少し遅れて取り組まれた。
- B 国連の「障害者の権利条約」に関する特別委員会の検討では、障害者団体などがNGOとして、意見表明の機会を与えられた。
- C 我が国では多くの障害種別の全国団体が結成されたが、当事者団体である日本オストミー協会や全国難聴者・中途失聴者団体連合会は、1980年代以降に社団法人として認可されている。
- D 現在、世界的に活動している障害者関係団体には、世界盲人連合(WBU)、世界ろう連盟(WFD)、インクルージョン・インターナショナル(II)、国際リハビリテーション協会(RI)、障害者インターナショナル(DPI)などがある。

(注) 「障害者の権利条約」とは、「障害者の権利及び尊厳の促進及び保護に関する包括的かつ総合的な国際条約」のことである。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 96 次の記述のうち、障害者自立支援法に定められているものに○、定められていないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 居宅介護
- B 通所介護
- C 相談支援
- D 就労移行支援

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 97 平成18年6月に改正された学校教育法（平成19年4月施行）に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 盲学校、聾^{ろう}学校、養護学校を障害種別を超えた特別支援学校に一本化した。
- 2 「特殊学級」という用語が「特別支援学級」に改められた。
- 3 特別支援学校においては、在籍児童等の教育を行うほか、小中学校等に在籍する障害のある児童生徒等の教育について助言援助に努める旨、規定された。
- 4 特別支援学校には、外部機関との連絡調整に当たる、特別支援教育コーディネーターを必置する旨、規定された。
- 5 小中学校等においては、学習障害（LD）・注意欠陥多動性障害（ADHD）等を含む障害のある児童生徒等に対して適切な教育を行うことが規定された。

(障害者福祉論・事例問題)

次の事例を読んで、問題98から問題100までについて答えなさい。

〔事例〕

Aさん（男性，23歳）は，19歳のとき，職場からの帰宅途中，バイクの自損事故で頭部を受傷し，救急医療センターに搬送された。頭蓋骨骨折，脳挫傷，びまん性軸索損傷と診断され，低体温療法を受けた。3週間ほど意識不明であったが，徐々に意識が回復した。その後，理学療法，作業療法，言語療法などの訓練を受け始めたが，感情の起伏が激しく，他の入院患者に対する暴言や暴力のために病院内での対人関係にトラブルが生じた。そのようなこともあって退院し，在宅療養となった。

しかし，家庭内では，火の始末ができない，訪問販売員から不要な商品を購入してしまうなどの問題が頻発した。また，家族のささいな言動に過度に反応する，いらいらして家族に暴言を吐くなど，対人関係の拙劣さにより，しばしばトラブルが発生した。したがって，常に家族による見守りが必要な状態で，Aさん自身も家族もストレス状態が続いた。また，将来に対する不安もあり，職場復帰を目指して，施設において通所での訓練を開始することとなった（問題98）。

訓練開始時の状態は，軽度の右片麻痺があるものの，屋外歩行も杖なしで可能であった。高次脳機能障害として，記憶障害，注意障害，遂行機能障害，病識欠落，依存性・退行，感情コントロール低下，対人技能拙劣，固執性などが認められた（問題99）。家族は訓練に大きな期待を寄せており，職場復帰することが，将来にとって最低限必要であると考えている。元の職場は事故から2年たって退職したが，以前の上司は，治ゆすれば復職させてもよいと言っている（問題100）。

問題 98 Aさんの職場復帰へ向けた、現時点での支援に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Aさんの希望は職場復帰であるので、具体的な日程を決めて本人の自覚を促し、復職するための支援を早急に開始する。
- B 就労支援においては、Aさんの対人関係の問題を理解し、周囲の人々とのパイプ役を務める身近なキーパーソンを選ぶことが重要である。
- C 確実に職務を遂行するためにも、問題が発生するごとに即時のフィードバックを行い、本人が障害を意識できるようにするアプローチに努める。
- D 職場復帰の重要な課題になると考えられるので、メモ帳の活用など、記憶障害に対する代償手段の活用を積極的に働き掛ける。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	×	○	○	○
4	×	○	○	×
5	×	×	×	○

問題 99 Aさんは、高次脳機能障害に特有な様々な症状を示しているが、将来に備え、生活面・就労面について、施設が行うべきアプローチに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 注意障害に対しては、パソコンを活用するなど、統制された条件下で本人の能力に合わせ、課題に集中して取り組めるような環境整備に努める。
- B 遂行機能障害に対しては、1日・1週間単位でのスケジュールの大枠を決め、それに当てはめることで、安定した行動パターンの確立を目指す。
- C 感情コントロール低下に対しては、生活場面での気分の安定や衝動のコントロールのために、専ら薬物療法を優先して実施する。
- D 対人技能拙劣に対しては、本人・家族のストレスを軽減するために、Aさんが一人を外に出る機会を増やし、第三者とのかかわりの中で厳しさを体験させる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | × | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 100 現時点では、将来の方向づけが難しいAさんに対し、これからの支援のあり方に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A Aさんの支援においては家族の果たす役割が大きく、施設退所後は、生活面についても就労面についても、関係者から家族へのアプローチが中心となる。
- B 復職に当たっては職場の協力が重要となるので、本人が復帰する前から、上司や同僚と話し合うなど、職場との情報交換を密にしておく。
- C Aさんは障害が軽度であるため、今後、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の利用について、検討する必要はない。
- D Aさん本人や家族がピアカウンセリングに参加したり、有効な情報を得られると考えられるので、地域の家族会等を紹介する。

(組み合わせ)

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | A | B |
| 2 | A | C |
| 3 | B | C |
| 4 | B | D |
| 5 | C | D |

児童福祉論

問題 101 児童福祉法は、児童福祉の原理について、以下のように規定している。条文の空欄Aに該当する記述として、次のうち、正しいものを一つ選びなさい。

第一条 すべて国民は、児童が心身ともに健やかに生まれ、且つ、育成されるよう努めなければならない。

② すべて児童は、ひとしくその生活を保障され、愛護されなければならない。

第二条 国及び地方公共団体は、「A」

第三条 前二条に規定するところは、児童の福祉を保障するための原理であり、この原理は、すべて児童に関する法令の施行にあたって、常に尊重されなければならない。

- 1 児童の保護者に対し、児童を心身ともに健やかに育成させる義務を負う。
- 2 児童の保護者ととともに、児童に対し、自立心を醸成させるように指導しなければならない。
- 3 児童の保護者に対し、児童の自立心を醸成させるように指導させなければならない。
- 4 児童の保護者ととともに、児童を心身ともに健やかに育成する責任を負う。
- 5 児童の保護者の協力を得て、児童を心身ともに健やかに育成する責任を負う。

問題 102 「児童の権利に関する条約」第3条第1項の条文の空欄Aに該当する語句として、次のうち、正しいものを一つ選びなさい。

児童に関するすべての措置をとるに当たっては、公的若しくは私的な社会福祉施設、裁判所、行政当局又は立法機関のいずれによって行われるものであっても、「A」が主として考慮されるものとする。

- 1 親からの分離禁止
- 2 児童の最善の利益
- 3 児童の意見
- 4 親を知る権利
- 5 親の第一次的養育責任

問題 103 以下の文章は、著者自身が行ってきた実践の内容について記述したものである。

この文章の著者として、次のうち、正しいものを一つ選びなさい。

人間社会で悪くなった者を人間の多い社会で善くするという事は極めて難しい……。……。葱は不良少年に作られたからというて、汝が作るのだから成長してやらないとは申しませまい。不良少年といえども正直に労働さえすれば必ず好く出来るに違いない。そこで不良少年は考えるであろう、人間は我を不良少年として取り扱うけれども、馬鈴薯や葱は我を不良少年と見て居らぬと見える、いかんとなれば骨折りて労働さえすれば馬鈴薯も葱も善く出来ると、しかして……。不良少年も大いに面白味を感じて仕事に精出すようになりませ、これがすなわち自然の感化であります。

……。私は同じ主義方針で巢鴨の地で少年を教育しましたが、……。自然の背景の下で少年を教育してみたいというので、北海道……。の原生林に一千町歩の土地払い下げを出願し、遂に大正3年7月の下旬移住することにしました。

(注) 日本図書センター発行の「人間の記録」シリーズの第82巻より抜粋。なお、原典である『自然と児童の教養』（大正13年刊行）の文章が一部変更されている。

- 1 石井十次
- 2 石井亮一
- 3 野口幽香
- 4 留岡幸助
- 5 高木憲次

問題 104 相談体制に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 平成17年に児童相談所運営指針が改正され、児童相談員が児童心理司へ名称変更された。
- 2 都道府県知事が要保護児童に関する報告を受けた場合、都道府県は、当該都道府県以外の者の設置する児童家庭支援センターにその児童の指導を委託することができる。
- 3 家庭児童相談室は、要保護児童を発見した場合の通告先として、児童福祉法にその名称が規定されている。
- 4 児童相談所を設置することができるのは、都道府県及び政令指定都市のみである。
- 5 地域子育て支援センターは、平成9年の児童福祉法の改正により、新たに児童福祉法に定められた児童福祉施設である。

問題 105 要保護児童対策地域協議会に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 要保護児童のうち、被虐待児童のみを対象とすると児童福祉法に規定されている。
- 2 要保護児童対策地域協議会を構成する者のうち、公務員と社会福祉法人の職員には守秘義務が課せられているが、それ以外の者には守秘義務は課せられていない。
- 3 要保護児童対策地域協議会は、専門的な助言を行うことのみを目的としているため、児童福祉法において、関係機関等に対し、資料又は情報の提供を求める際には、都道府県知事の許可を得なければならないとされている。
- 4 要保護児童対策地域協議会を設置した地方公共団体の長は、協議会を構成する関係機関等のうちから、複数の要保護児童対策調整機関を指定することができる。
- 5 要保護児童対策調整機関は、協議会に関する事務を総括するとともに、要保護児童等に対する支援の実施状況を的確に把握し、必要に応じて、児童相談所その他の関係機関等との連絡調整を行うものとされている。

問題 106 社会的養護に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 平成16年の児童福祉法改正により、特に必要のある場合には、乳児院、児童養護施設とも乳児から18歳未満の児童を入所させることができることとされた。
- B 地域小規模児童養護施設は、地域の中の住宅等を活用し、心理療法担当職員による家庭的な環境での養護を実施することにより、心理的な課題を有する児童に対する治療の場として設置することとされている。
- C 「家庭支援専門相談員（ファミリーソーシャルワーカー）」は、乳児院等に入所している児童の早期家庭復帰、退所後の児童に対する継続した生活相談等の支援を専門に担当する職員である。
- D 里親は、受託中の児童のうち、親権を行う者のあるものについては、監護、教育及び懲戒に関し、その児童の福祉のため必要な措置をとることはできない。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | × | ○ |
| 3 | × | ○ | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 107 児童福祉法に規定する子育て支援施策に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 児童福祉法は、児童福祉に関する基本法であるため、児童手当についても、その目的を規定している。
- 2 放課後児童健全育成事業の実施主体は、都道府県、市町村、社会福祉法人に限定されている。
- 3 市町村は、子育て支援事業が着実に実施されるよう、必要な措置の実施に努めなければならないとされている。
- 4 都道府県は、児童の放課後児童健全育成事業の利用の促進に努めなければならないとされている。
- 5 都道府県は、子育て支援事業に関し必要な情報の提供を行うものとされている。

(児童福祉論・事例問題)

児童虐待に関する次の事例を読んで、問題108から問題110までについて答えなさい。

〔事例〕

ある日、児童福祉司のAさんが出勤すると、玄関の前でB君（小学校5年生男子）が不安げに立っていた。事情を尋ねると、「毎日のようにお父さんに殴られる。昨夜も『おまえなんか出て行け』と言われ、頭を殴られた。恐くなって家を飛び出した。もう家には帰りたくない」と涙ながらに訴えた。Aさんが見ると、B君の顔や頭には新旧入り混じったコブや痣^{あざ}がある。Aさんは、B君を面接室に誘い入れ、詳しい事情を聴くことにした。

面接やその後の関係機関への確認を通して、次のような事実が明らかになった。B君の家は父子家庭であること、B君の父Cさんは病弱のため無職で生活保護を受給していること、B君は1年前、Cさんに鉄製の灰皿を投げつけられ、頭蓋骨骨折^{がいかい}で緊急入院したが、病院の通告により、B君は児童養護施設に入所したこと、しかし、半年後にCさんが一方的にB君を連れ帰ってしまい、まもなく一家で現住地に転居してきたこと、B君としては以前入所していた児童養護施設への入所を希望していることなど。面接の最後にB君は、Aさんに「自分が今日話したことは一切父には内緒にしておいてほしい」と訴えた（問題108）。

その後の緊急受理会議において、直ちにB君を一時保護することが決まり、AさんはB君の了解のもとにCさんに電話し、「B君が今、児童相談所に来ている。今後のことについて話し合いたいので、すぐに来所してほしい」と伝えたところ、Cさんは「今すぐBを家に送り返してほしい。施設には絶対入れるつもりはない」と一方的に興奮した調子でまくしたてた。AさんがCさんの声に粘り強く耳を傾けながら、来所するよう説得した結果、「今すぐ行く」と言って電話が切れた。Cさんが来所するまでの間、Cさんが一時保護中のB君を強引に連れ戻すことが予想されたため、一時保護先を父親に伝えるかどうかで児童相談所内部で議論が交わされた（問題109）。

その後、来所したCさんは、電話のときよりは少し落ち着いた様子であったが、面接室に入るなり、盗み食いや家の金品持ち出しなど、B君の問題行動を並べ立て、「父親として子どもを厳しくしつけるのは当然のことだろう。Bにはいろいろと問題行動はあるし、自分もそのことで苦勞が多いが、Bは自分の生き甲斐でもある。絶対に手離すわけにはいかない」と言った（問題110）。

問題 108 このときのAさんのB君への対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 B君の気持ちはよく分かるよ。お父さんには内緒にしておこうね。
- 2 今日B君が話したことをお父さんに伝えるかどうかは、私に任せてね。
- 3 お父さんとの話の中で、B君から聞いた内容も伝えざるを得ないことがあるかもしれないんだ。その場合は、B君に相談するようにするから安心してね。
- 4 B君が話したことをある程度お父さんに伝えないと施設入所の話は前に進まないんだ。だから、残念だけど、B君の思うようにはならないよ。
- 5 B君が話したことをお父さんに内緒にしているけど、結局後でばれるのだから、最初にきちんとお父さんに伝えた方がよいと思うよ。

問題 109 このときに出た意見に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 Cさんは一時保護には納得しておらず、現に過去にもB君を施設から強制的に引き取った経緯があり、一時保護先を伝えれば、B君は再び家に連れ戻される可能性がある。しかし、一時保護について行政不服申立てを行う権利がCさんには保障されているのだから、一時保護先は当然伝えるべきである。
- 2 Cさんは一時保護には納得しておらず、現に過去にもB君を施設から強制的に引き取った経緯があり、一時保護先を伝えれば、B君は再び家に連れ戻される可能性がある。このため、B君の最善の利益を考慮して、一時保護先はCさんに伝えなくてもよいのではないか。
- 3 Cさんには親権者としての居所指定権があるのだから、当然一時保護先は伝えるべきである。
- 4 一時保護中において、CさんがB君の引取りを要求してきた際には、これを拒むことは法的にはできないのだから、子どもの一時保護先が知れるとまずい。一時保護先は伝えない方がよい。
- 5 児童虐待の防止等に関する法律第9条の規定に従い、一時保護先を伝えないこととするべきである。

問題 110 このときのAさんのCさんに対する対応に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A お父さんのご苦勞はよく分かります。お子さんにはいろいろと問題があるようですので、一旦、児童相談所でお子さんをお預かりし、心理テストなどをやってみたいと思いますが、いかがでしょうか。
- B あなたのお子さんを思う気持ちとご苦勞はよく分かります。しかし、あなたのやり方では、あなたの意図がお子さんには通じないし、あなたの行為は虐待に当たると言わざるを得ません。一旦、お子さんを保護し、お子さんへのかかわりの方法を一緒に考えていきましょう。
- C 今のままでは、お子さんの健全な成長に悪影響があると思います。お子さんにも育てにくさがあるのかもしれませんが、少し離れてみて、お互いにこれからのことを考えてみる時期にきているのではないのでしょうか。
- D お父さんがおっしゃることはもっともです。お父さんを信頼して、一時保護はしません。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B C
- 5 C D

社会福祉援助技術

問題 111 社会資源に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 社会資源は、フォーマルなものとインフォーマルなものに区分することができる。
- B 社会資源は、その性質によって、物的資源、人的資源、文化的資源、社会関係的資源などに分類することができる。
- C ソーシャルワーク実践には、社会資源の再活性化や新たな資源の創出に向けた活動が含まれる。
- D 社会資源と人々をつなぐソーシャルワーク実践は、ケアマネジメントの手法が定着後に行われるようになった。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 112 日本社会福祉士会の倫理綱領（2005年採択）に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 前文において、利用者と市民への責任から倫理綱領を^{じゆん}遵守することを誓約し、社会と国が是認することをもって、専門職団体を組織すると定めている。
- B 価値と原則では、「誠実」を明記し、社会福祉士は倫理綱領に対して常に誠実であると定めている。
- C 実践現場における倫理責任の一つとして、社会福祉士は、常に業務を点検し評価を行い、業務改善を推進すると定めている。
- D 社会に対する倫理責任の一つとして、人々をあらゆる差別、貧困、抑圧、排除、暴力、環境破壊などから守り、包含的な社会を目指すよう努めると定めている。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 113 社会福祉援助技術のアプローチに関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 スモーリー (Smalley, R.) は、「診断派アプローチ」を発展させ、ソーシャルワーク実践の5原則を提唱した。
- 2 ラップ (Rapp, C.) は、重い精神障害をもつ人々の地域生活を支援するための「コミュニティアプローチ」を提唱した。
- 3 パールマン (Perlman, H.) は、ソーシャルケースワークの実践モデルである診断主義と機能主義を折衷的に発展させた「統合アプローチ」によって両者の論争を収束させた。
- 4 リード (Reid, W.) は、効果測定に基づく実証主義的な手法で「課題中心アプローチ」を開発した。
- 5 ハートマン (Hartman, A.) は、家族システムを重視した介入法として「心理社会的アプローチ」を体系化した。

問題 114 ソーシャルワークの援助過程におけるアセスメント機能に関する次の文章の空欄A, B, Cに該当する語句の組み合わせとして、最も適切なものを一つ選びなさい。

アセスメントの目的は、利用者の生活問題に関して情報を収集し、その分析に基づいて目標設定等のための「A」の方向づけを行うことである。そして、アセスメントの過程では、利用者のみならず「B」についても情報収集する必要がある。また、アセスメントで用いられるエコマップやジェノグラムは、利用者の置かれている状況を「C」し、文章による説明を補う機能を持っている。

- | | A | B | C |
|---|-----------|----|-----|
| 1 | プランニング | 環境 | 組織化 |
| 2 | プランニング | 環境 | 視覚化 |
| 3 | プランニング | 家族 | 組織化 |
| 4 | インターベンション | 家族 | 視覚化 |
| 5 | インターベンション | 環境 | 組織化 |

問題 115 個別援助の理論に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 課題中心アプローチは、クライアントとともに課題を明確にし、計画的かつ短期に援助する方法である。
- B 行動変容アプローチは、ストレス・コーピング理論をケースワークに応用したもので、特定の問題行動の変容を目標に援助する方法である。
- C 問題解決アプローチは、人の自我機能としての問題解決能力を重視し、役割機能上の問題に対処できるように援助する方法である。
- D 機能派アプローチは、無意識下にあるものを意識化させ、治療的に援助する方法である。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 116 ロスマン (Rothman, J.) の「コミュニティ・オーガニゼーションの3つのモデル」に関する次の文章の空欄A, B, Cに該当する語句の組み合わせとして、正しいものを一つ選びなさい。

「A」モデルでは、目標の決定や活動において、住民参加を重視する伝統的な方法で、地域社会の協働的な問題解決能力が強調された。「B」モデルでは、専門技術的な過程を重視し、合理的に統制された変革や社会資源の配分に高い関心が置かれた。「C」モデルは、不利な立場にある住民の発言権を増大させ、待遇の改善や社会資源の開発を通して、権力構造そのものの変革を目指した。

- | | A | B | C |
|---|-------------|-------------|-------------|
| 1 | 地域開発 | 社会計画 | ソーシャル・アクション |
| 2 | 社会計画 | ソーシャル・アクション | 地域開発 |
| 3 | ソーシャル・アクション | 社会計画 | 地域開発 |
| 4 | 地域開発 | ソーシャル・アクション | 社会計画 |
| 5 | 社会計画 | 地域開発 | ソーシャル・アクション |

問題 117 福祉サービスを評価するための方法の一つである古典的実験計画法（プリテスト→ポストテスト統制群法）に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 援助を行う前のクライアントの状況を事前評価するために、ベースラインでクライアントの状況を観察・測定する。
- B クライアントを実験群と統制群に分ける際、無作為割当（分配）を行う。
- C 実験群と統制群との比較・評価を行うために、援助実施前後にクライアントの状況を観察・測定する。
- D 援助を受けるグループを統制群という。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 118 コンサルテーションに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A コンサルテーションとは、対人援助の専門職が課題解決のために、特定の領域の専門職から情報・知識・技術を習得する過程を指す。
- B コンサルテーションには、ソーシャルワーカーを監督・指導する管理的機能がある。
- C コンサルテーションでは、必要に応じてソーシャルワーカー同士で専門的な意見を求め合うこともある。
- D コンサルテーションには、上下関係があり、コンサルテーションを行う者の権威が反映される。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問題 119 北米におけるソーシャルワークの統合化に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 統合化とは、ケースワーク、グループワーク、ソーシャルアドミニストレーションの共通基盤を明確にして、一体化してとらえようとする動向である。
- 2 統合化への先駆けとなったのは、ミルフォード会議の報告書（1929年）において、「スペシフィック」という概念が示されたことである。
- 3 統合化の背景には、複雑化、深刻化するクライアントの生活問題に、ソーシャルワーカーが効果的に対処していたという実態があった。
- 4 統合化において、大きな影響を与えた理論の一つに、システム理論がある。
- 5 統合化は、ソーシャルワークの体系化を遅らせ、ソーシャルワーカーのアイデンティティを混乱させるもととなった。

問題 120 コノプカ (Konopka, G.) によるグループワークの原則に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 「参加の原則」とは、グループワーカーが積極的にプログラムに参加することで、メンバーの問題をワーカーが解決していくことである。
- B 「個別化の原則」には、メンバー個人の相違点を認識するための個別化と、当該グループを他のグループとは違う固有の特徴をもつグループとして認識するグループの個別化とがある。
- C 「葛藤^{かつとう}解決の原則」とは、グループワーカーの援助によって、グループの相互作用のなかで生じる葛藤やメンバー個人の内面的葛藤の解決を促すことである。
- D 「制限の原則」とは、受け入れの無条件的許容ではなく、メンバー及びグループのニードと団体・機関の機能に照らした建設的な制限を加えることである。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	×	○	×

問題 121 バイステック (Biestek, F.) のケースワークの原則に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 クライエントは、自分に関する内密の情報をできる限り秘密のままで守りたいというニーズを持っているところから、「秘密保持の原則」が導き出された。
- 2 クライエントは、自分の人生に関する選択と決定を自ら行いたいというニーズを持っているところから、「自己決定の原則」が導き出された。
- 3 クライエントは、個人として迎えられ、対応してほしいというニーズを持っているところから、「非審判的態度の原則」が導き出された。
- 4 クライエントは、一人の価値ある人間として受け止められたいというニーズを持っているところから、「受容の原則」が導き出された。
- 5 クライエントは、自分の感情表現に対して共感的な理解と適切な反応を得たいというニーズを持っているところから、「統制された情緒的関与の原則」が導き出された。

問題 122 地域福祉計画の策定に当たって活用される方法に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A K J法は、時間軸に沿った作業の一覧表を作成して進捗状況を管理する方法である。
- B ブレインストーミング法は、自由な発想の討議を行う方法である。
- C パート法は、実施段階で準備作業単位ごとにネットワーク図を描く方法である。
- D デルファイ法は、アンケート調査で、専門家等の意見を集約・収斂^{れん}していく方法である。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	×	○	○	○
4	×	×	○	○
5	×	×	×	○

(社会福祉援助技術・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 1 2 3 から問題 1 2 5 までについて答えなさい。

〔事 例〕

Nさんは、初めて職場の相談室を訪れた。ワーカーは、Nさんに自己紹介を行い面接を始めた。

ワーカー：今日はどのようなことをご相談にいらっしやいましたか。

Nさん：上司とそりが合わなくて困っています。

ワーカー：ではまず、そりが合わないと思われないきさつを具体的にお話しただけませんか。

Nさん：実は、今の職場で働くようになって8年目になります。上司は、今年着任したばかりなんですけど、業績重視で、これまでやってきた方針と違うため、ついていけないんです。私は、職場の中で長い方なので、上司が着任した当初は、これまでの流れや、新しい方針に皆が戸惑っていることを代表して説明していました。それからなんです。ことあるごとに「君のために言ってるんだ」と大声で怒鳴られます。また、ちょっとしたミスでも始末書を書かされたりするようになりました。これっていじめでしょうか。

ワーカー：(問題 1 2 3)。

Nさん：(ため息をついて) つらいです。同僚も私が上司に目を付けられていることを知っていて、職場では誰も助けてくれません。友人も気持ちは分かるけれど、もう少し頑張れと言うばかりです。いったい、私は、どうしたらいいのでしょうか。

ワーカー：Nさんは、どうしたらよいか困っていらっしやるのですね (問題 1 2 4)。

・・・(中略)・・・

Nさん：ようやく、職場でも重要な仕事を任されるようになってきました。でも精神的にまいっています。実際に、眠れない毎日が続き、単純な事務処理でもミスをしてしまいます。また上司の前に出ると萎縮して、今は何も言えません。

ワーカー：今、Nさんは心も体もつらいですね (問題 1 2 5)。

問題 123 この場面でのワーカーの応答に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A そうかもしれませんね。
- B いろいろとつらいことがおありになったんですね。
- C いじめにあわれたとお思いなのですね。
- D そこまで気にされなくても大丈夫だと思います。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	×	○	○	×
4	×	×	○	○
5	×	×	×	○

問題 124 ここで行ったワーカーの面接技法に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 感情の反映
- 2 肯定的意味づけ
- 3 対決
- 4 自己開示
- 5 要約

問題 125 この直後に行うワーカーの対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A これまでの面接内容を簡単に要約し、確認する。
- B 心療内科などの受診を勧める。
- C これまでのNさんの話からいじめについての見解を述べる。
- D 問題の明確化に向けて、さらにNさんから情報収集する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	×	○	○

(社会福祉援助技術・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 1 2 6 から問題 1 2 8 までについて答えなさい。

〔事 例〕

M子は、16歳の女子高校生である。交通事故で腰や足の骨を骨折し、A病院に入院している。熱心にリハビリテーションに取り組んだ結果、杖を使ってようやく歩ける程度の身体状況になった。医師からは、これ以上の回復は困難なので、自宅に戻って機能保持のためのリハビリテーションに通うよう告げられた。

M子は、バスケットボールに夢中で、部のキャプテンをしていたこともあり、完全回復への期待が大きかった。それだけにショックは隠せず、夕方に見舞いに訪れる母を待ち構えては、激しい言葉で八つ当たりする毎日であった。母は、M子の心中を察しながらも、どのように応じたらよいかを困惑している様子であった。M子の家族は、本人、会社員の父、パート従業員の母、中学校3年生の弟の4人家族である。

ある日、母が「娘（M子）に内緒で来ました。今日は時間があるので話を聞いてほしいのですが・・・」とA病院のソーシャルワーカー（以下、「ワーカー」という。）を訪ねてきた（問題 1 2 6）。

ワーカーとの面談で、母は、家族会議を開いてM子の退院帰宅を弟の高校受験の後にすることにしたという。帰ってくると弟の勉強部屋が確保できない上に、M子はもともと自分本位なので、「受験が終わるまで帰ってきてほしくない」と弟も言っている」と母は述べた。そして、母は、多感な時期である息子の気持ちを配慮して、「M子には、リハビリが続けられる別の病院か施設を紹介してもらい、完全に落ち着いてから家に帰ってきてもらいたい。正直なところ、そのほうが私も気が楽です」とも述べた。

・・・(中略)・・・

面接終了後、ワーカーは、これまでリハビリテーションに懸命に取り組んできたM子の姿を思い浮かべ、本人を抜きにして帰宅を拒む結論を出したという家族の決定に少々腹立たしい気持ちを感じた（問題 1 2 7）。

数日後、医師から「退院について相談に乗ってあげてほしい。M子にもワーカーが来ると伝えた」と依頼された。ワーカーがM子を訪ねて話をしたいと言うと、M子は「誰とも話なんかする気分ではない」と答えた（問題 1 2 8）。

問題 126 この場面におけるワーカーの対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 患者はM子なので、M子の許可を取ってから母と面接を行う。
- B ワーカーは、家族メンバーもクライアントとしてとらえて面接を行う。
- C 患者に対して責任を取る立場の主治医に指示を受けてから、母との面接を行う。
- D M子に内緒で母の相談を受けることのリスクと、それへの対処方法を考えながら面接を行う。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 127 この状況におけるワーカーの対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A ワーカーは、中立的な立場を保持すべき専門職なので、このような腹立たしさを意識しないようにする。
- B ワーカーも人間である以上、様々な感情を抱くものなので、ワーカーは、自分が腹立たしいことを率直に表出する。
- C ワーカーは、自分の感情を吟味しながら、その感情を自覚する。
- D ワーカーは、面接における自分の感情の意味を理解し、その対応方法を考えるため、スーパービジョンを受ける。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	×	×	○	○
4	×	×	○	×
5	×	×	×	○

問題 128 この直後に行うワーカーの対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 話せる気分ではないと言っていましたと主治医に報告します。
- B 誰とだったら話ができるのですか。
- C 話をしたくない・・・そういう気分なのですね。
- D 私が来ることを主治医から聞いていなかったのですか。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	×	○	×	○
4	×	×	○	○
5	×	×	○	×

(社会福祉援助技術・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題 1 2 9 から問題 1 3 1 までについて答えなさい。

[事 例]

Kさん(42歳, 男性)は, 中度の知的障害者である。知的障害者更生施設(以下, 「施設」という。)に入所して今年で8年目になる。母親は5年前に他界し, 父親はKさんの弟(37歳)と同居している。弟は会社員で, 父親, 妻子とともに隣の県に住んでいる。弟は, Kさんのことを気に掛けており, 年に数回Kさんを訪ねている。

施設では, 入所者の地域生活への移行を積極的に進めている。施設に勤務しているソーシャルワーカー(以下, 「ワーカー」という。)は, 利用者の地域生活支援を担当している。Kさんは, かねてより, グループホームでの生活を希望しており, ホームの候補をいくつか当たってみることとなった(問題 1 2 9)。

・・・(中略)・・・

Kさんは施設を退所して, 他の5名の利用者とともにグループホームでの生活を始めた。昼間は小規模作業所に通い, ラジオ部品の組立てを行っている。作業態度はまじめである。ただ時々集中力が途切れ, 不良品を出すこともある。Kさんは物静かで人の話をじっと聞くタイプである。着替え, 入浴などには介助が必要で, また, 独りでいると不安になることが多く, 夜間には世話人が話をして落ち着かせることも必要である。作業所からの帰り道で迷子になり, ホームの職員が探したところ, 数時間後, グループホームから3kmほど離れたところにある交差点で不安そうなKさんを見付けたこともある。作業所が休みとなる土日には, 居室に閉じこもりテレビを見ていることが多い(問題 1 3 0)。

グループホームでの生活を始めて半年が経ち, 作業所での休み時間には仲間と語り合う姿が見られるなど, Kさんは, 新しい生活にも慣れてきたようである。Kさんの今後の生活を考えると, 将来のために様々なことを準備していくことが必要であると考えられた(問題 1 3 1)。

問題 129 次の記述のうち、この後のワーカーの支援活動として、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A Kさんに様々なグループホームに関する情報を提供する。
- B Kさんの弟の意向を聞き、弟の意向を尊重してグループホームを決定する。
- C Kさんとともに、候補となったグループホームを見学する。
- D Kさんが就労可能であることが条件になるので、グループホームへの移行については、しばらく見合わせる。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 130 次の記述のうち、この時点での作業所やグループホームにおけるKさんへの支援として、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 成功体験のために、部品の組立て工程を工夫する。
- 2 土日には、一人で外出するように助言する。
- 3 しばらくの間は、作業所への行き帰りにホームの職員等が同行するようにする。
- 4 入居者や作業所での仲間との親睦が深まるようにする。
- 5 ボランティアの力を借りてレクリエーション等の機会を作る。

問題 131 次の記述のうち、この状況において、Kさんの今後の生活を支えていく上で必要と思われる活動について考える場合、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 アパートを借りて一人暮らしを始めることを選択肢の一つとして検討する。
- 2 地域福祉権利擁護事業の活用の可能性を検討する。
- 3 グループホームに対してバックアップ機能を果たすよう知的障害者更生施設に働き掛ける。
- 4 個別支援計画を見直し、Kさんとの話し合いを記録する。
- 5 Kさんの一人暮らしに備え、近所の人にKさんの生い立ちなどを十分説明する。

(社会福祉援助技術・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 1 3 2 から問題 1 3 4 までについて答えなさい。

〔事 例〕

地域包括支援センターの A 職員が、同じ地域の B 介護支援専門員から、私の担当の P さん（81 歳、女性）が別居の息子とうまくいっていないようなので、一度一緒に訪問してほしいという連絡を受けた。その B 介護支援専門員の話によれば、最近になって不自然な内出血（^{あざ}痣）が腕に認められること（訪問介護員も確認している）、隣の市に住む息子（56 歳）の訪問が頻繁にあり、その息子が P さんに怒鳴っている場面をたまたま訪れた近隣の人が見掛けたりしているとのことであった（問題 1 3 2）。

数日後、担当となった S ワーカーは P さんの承諾を得た上で、B 介護支援専門員と一緒に訪問した。B 介護支援専門員が痣のことについて心配していると伝えると、P さんは、「転倒してタンスの角でぶついただけなんです」という説明を繰り返した（問題 1 3 3）。

・・・(中略)・・・

S ワーカーが、「これから時々訪問させてもらってもいいですか」と尋ねると、P さんは「はい、よろしくお願いします」と答えた。

S ワーカーは、その後の訪問を通して、息子をめぐっていくつかの情報を収集することができた。息子は、5 年前に長く勤めた鉄工所をリストラされて定職を失い、その後夫婦関係が悪化し、3 年前に離婚した。その後も、定職が見付からず、不安定な生活で、酒を飲む毎日が続いていたようである。母親のところには、年金をあてにしてやって来るとのこと、それを P さんが断ると息子が怒鳴るということが明らかとなった（問題 1 3 4）。

問題 132 この時点で、A 職員が採るべき対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A この時点で得られた情報の正確さについて再確認する必要がある。
- B 生命の危険等、緊急性の程度を正確に把握する必要がある。
- C 息子に連絡を取って、P さんの痣に関する事実を確認する。
- D B 介護支援専門員と調整の上、P さん宅への訪問のタイミングを考える。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問題 133 次の記述のうち、この段階でのPさんへの対応として、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 痣についてPさんから話せる雰囲気を作る。
- B タンスにぶつけた経緯について重ねて詳しく尋ねる。
- C 息子の生活状況やPさん宅への訪問の頻度について尋ねる。
- D 息子とできるだけ会わないように促す。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	×	○	○

問題 134 次の記述のうち、今後、Sワーカーが採るべき息子への対応として、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Pさんに対して怒鳴るのをやめるよう息子に指導する。
- B 息子との接点を確保し、援助関係の形成に向けて取り組む。
- C 息子の置かれた状況について共感的に理解する。
- D 息子の飲酒の状況を把握する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	×	○	○
2	○	×	×	×
3	×	○	○	○
4	×	○	○	×
5	×	○	×	×

(社会福祉援助技術・事例問題 5)

次の事例を読んで、問題 1 3 5 から問題 1 3 7 までについて答えなさい。

〔事 例〕

Qさん(55歳,男性)の家族は,本人,妻(50歳),娘(28歳)の3人家族である。3年前に直腸癌と診断され手術をした。本人も家族も完治したと思っていたが,食欲不振,歩行困難,痛みが出現した。入院検査の結果,仙骨や骨盤に転移があることが明らかとなり,末期状態で治療も望めず,栄養状態も悪く余命6か月と診断された。病院のAソーシャルワーカー(以下,「Aワーカー」という。)は,医師より今後のことについての相談を依頼され,Qさんとの面接を行い,その面接においてQさんは,心理的不安と混乱を示した(問題135)。

・・・(中略)・・・

妻と娘との家族面接では,検査入院のつもりだったので,Qさんを一度は家に連れて帰りたいとの希望が聞かれたが,在宅ケアに対する不安感が高かった。そこで今後の療養生活に関する方向性の意思決定を行う必要性から,Qさんとの個人面接や家族との合同面接を数回実施した。そして,最終的に,本人や家族は,在宅でのターミナルケアを決断した。

・・・(中略)・・・

在宅ケアを前提に,本人や家族は,ある指定居宅介護支援事業所のB介護支援専門員を選んだ。その後の家族との面接で,妻は,Qさんとの自宅での生活を希望するものの,痛みの強いQさんを最期まで在宅で看護する自信がなく,不安が一杯であることが分かった。そこで,Aワーカーは,Qさんに対する在宅ケアに関して,医師をはじめ,各担当者を交えたケースカンファレンスを開催することにした(問題136)。

その後,退院が近づき,Aワーカーは,Qさんとの面接を継続し,一方ではB介護支援専門員とも協力を図りながら,様々な社会資源の活用を行うために,退院後の在宅生活に対する援助計画を本人や家族とともに考えた(問題137)。

問題 135 この場面におけるQさんに対する援助に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Qさんの精神的状況を主治医と病棟の担当看護師に伝え、サポート体制を作る。
- B Qさんの不安な気持ちが軽減できるようにQさんの話を聞き、カウンセリングや危機介入を行う。
- C Qさんが自殺する可能性があるので、精神科の受診を勧める。
- D Qさんの混乱状況を家族に伝え、直ちに家族に対する家族療法を始める。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 136 この時点で開催されたケースカンファレンスに関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A Aワーカーは、ケースカンファレンスを行うに当たって、Qさんや家族への参加を求めかどうかについて検討する。
- B Aワーカーは、在宅ケアだけではなく、転院の方向性を提示し、家族が安心できる方法を示す。
- C B介護支援専門員も参加して、現在の状況の確認と退院後の生活の方向性について病院内スタッフと協議する。
- D Qさんの家族は、不安感が高いので、それを考慮して退院日を延ばすように、Aワーカーが代弁者として主治医に提案する。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 137 今後の援助のあり方に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Qさんの医療ニーズに対応するために、退院後のかかりつけ医や地域の訪問看護師と密接な連携を図る体制を構築する。
- B 在宅ターミナルケアは、家族の精神的負担が大きいため、家族支援を念頭に入れた支援体制を考える。
- C Qさんの医療ニーズは、極めて深刻であるため、精神科医を中心とする支援体制への移行を考える。
- D 家族が在宅ターミナルケアを断念した場合に備えて、再入院やホスピスの入院についても考慮しておく。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	×	○

(社会福祉援助技術・事例問題 6)

次の事例を読んで、問題 138 から問題 140 までについて答えなさい。

〔事 例〕

A市社会福祉協議会の福祉活動専門員（以下、「ワーカー」という。）は、地区の民生委員協議会の定例会に参加した際に、まだ、民生委員活動を始めて間もないX民生委員から、近所に住む一人暮らしのYさん（82歳、女性）についての相談を受けた。X民生委員は、これまで挨拶程度のかかわりしかなかったYさんのことが気になっており、「Yさんは、5年前に夫に先立たれ、それ以来一人で暮らしてきた。Yさんには、子どもはなく、車で2時間ほど離れた町に甥が一人いるが、ほとんど交流もなく、その他の親戚は遠縁で、離れた所にいる人ばかりである。Yさんの住む地域は、40年前に開発された地域で、特に高齢化が進んだ地区である。また、この半年ほど前から、Yさんが外出の際に道に迷ったり、Yさん宅から異臭がしたりするという話も近所の人から言われるようになっていいる。」とワーカーに相談した（問題138）。

・・・(中略)・・・

Yさんの新しい情報を得るために、Yさんの了解を得て、ワーカーは、X民生委員とともにYさん宅を訪ねると部屋は散らかっており、使った食器もそのままとなっていた。ワーカーが、普段の生活についてYさんから話を聞くと、Yさん自身も今の暮らしに不安を感じており、自分でもこれまでの自分ではなくなってきた気がすると切々と訴え、どうしていいの自分でも分からないとのことであった（問題139）。

・・・(中略)・・・

その後、民生委員協議会によって地区内の高齢者の実態把握を行うことになった。また、ワーカーはX民生委員とともに、地区内の福祉委員や自治会長らに対し、地区内の一人暮らし高齢者の支援について取り組むことを提案した。その結果、地区住民の参加による一人暮らし高齢者支援のための地域のネットワークづくりに取り組むこととなった（問題140）。

問題 138 次の記述のうち、この場面において、ワーカーが採るべき対応として、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A X民生委員が感じている思い、戸惑い、疑問などを十分に語り、表現することができるように促す。
- B X民生委員の負担を全面的に引き受け、今後のYさんへの対応について、専門機関に引継ぎを行うことを約束する。
- C X民生委員が民生委員としての役割の理解をより深められるように助言する。
- D Yさんへの支援を念頭におき、X民生委員との信頼関係を築くようにする。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問題 139 次の記述のうち、この場面において、ワーカーが採るべき対応として、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Yさんに対してA市の地域包括支援センターへ相談したらどうかと助言する。
- B Yさんの生活状況について、A市の地域包括支援センターに情報提供をするとともに、訪問を依頼する。
- C Yさんから聞いた情報を詳細に地区の福祉委員や自治会長に伝えるとともに、彼らによるYさんへの支援を求めるようX民生委員に助言する。
- D Yさんのような、一人暮らし高齢者に対する支援を地区内で行うため、X民生委員とともに地域での相互支援の会の立ち上げについて検討する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	×	○	○	○
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題 140 次の記述のうち、今後、ワーカーが採るべき対応として、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 地域のネットワークづくりを推進するに当たって、地区住民が地区内の一人暮らし高齢者に関する情報をいつでも閲覧できるようなデータベースシステムの構築を企画する。
- B 地域のネットワークづくりに必要な資金を確保するために、関係者・関係団体への働き掛けを企画する。
- C 地域のネットワークづくりに対する地区住民の参加意向を把握するための方法について検討する。
- D 地域のネットワークづくりに関する地区住民の活動拠点を確保するための情報収集を行う。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	×	○
3	×	○	○	○
4	×	○	○	×
5	×	×	○	×

介護概論

問題 141 認知症に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 周囲の人が誰か分からなくなったり、時間や場所などが分からなくなるのは、見当識障害によるものである。
- B 認知症発症後の記憶障害は、体験したことの一部が思い出せないことである。
- C 感情失禁は、脳血管性認知症の特徴である。
- D アルツハイマー型認知症の中核症状は、対応の仕方ですほとんど改善する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 142 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A バイタルサインとは、身長、体重、脈拍、呼吸で、人が生きている徴候のことをいう。
- B 介護における利用者理解は、介護者自身の感情や人生観を反映させて観察するとよい。
- C 夜間の睡眠不足は、日中の疲労感や活動低下と関係があるので、昼寝を十分とるよう支援する。
- D 介護の基本は、利用者の日常の生活状態を知り、できることにも視点を置くのがよい。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 143 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 利用者本位の援助とはその人を主体者として人権を尊重し、尊厳を保持することである。
- B 介護福祉士は、利用者自身がしていたインスリンの注射を利用者から依頼された場合、実施することができる。
- C 介護福祉士が、職業上知り得た利用者の秘密を正当な理由なく他人に漏らすと法律によって1年以下の懲役に処せられることがある。
- D 利用者の福祉に関する相談・助言を行う者は、社会福祉士に限られる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 144 介護における生活住環境の配慮に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 認知症には、自分の部屋のドアに家族の写真を貼ったり、ドアを本人の好きな色にする等、工夫をする。
- B 関節リウマチの人にとって家事は大きな負担であるから、台所ではキャスター付いすの使用など工夫をする。
- C 若くても腰髄損傷者は上肢の筋力が乏しいので、入浴には電動リフターを使用する必要がある。
- D 高齢者の家庭での転倒を防止するには、段差の解消や滑り止めなどの工夫をする。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | × |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 145 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 介護福祉士は、利用者の生活を自己の生活習慣や価値観に適用させる。
- B 障害をもつ利用者の自立を促進し、介護の負担を軽減するためにも、福祉用具を適切に活用する。
- C 室内に閉じこもりがちな高齢者は、心身機能の全般的な低下が生じやすいので、積極的に外出を促す。
- D 下肢筋力が低下傾向にある利用者には、残存能力を維持するために車いすを勧める。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | × | ○ | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 146 療養時の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 坐薬には鎮痛、解熱、消炎、排便促進などの作用を目的としたものがある。
- B 内服薬は、お茶やジュースを用いて飲むとよい。
- C 冷湿布は、血管を収縮させて患部の充血を防ぎ、鎮痛に役立つ。
- D 水剤・シロップ剤の服用の際、出し過ぎた場合には容器に戻す。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 147 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 身体障害者補助犬法で定める補助犬とは、盲導犬と介助犬の2種類である。
- B 普通型電動車いすは、介護保険法の福祉用具の貸与種目とされている。
- C 頸髄損傷者では、排尿障害への対応の一つとして、留置カテーテルが用いられる。
- D 聴覚障害者用屋内信号装置とは、来客や電話、目覚ましアラームなどを光やバイブレーターで知らせる装置である。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	○	○
5	×	×	○	○

問題 148 ユニット型指定介護老人福祉施設に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 「ユニット型」の指定介護老人福祉施設の特徴は、居宅に近い居住環境の下で、居宅における生活に近い日常生活の中でケアを行うこと、すなわち、生活単位と介護単位を一致させたケアであるユニットケアを行うことである。
- 2 ユニット型指定介護老人福祉施設においては、原則として、居室の定員は1人とされている。
- 3 ユニットとは、施設の全部において少数の居室及び当該居室に近接して設けられる共同生活室により一体的に構成される場所とされており、一つのユニットの入居定員は、おおむね10人以下である。
- 4 洗面設備、トイレ、浴室は、居室ごとに設置していなければならない。
- 5 居室の広さは、トイレの面積を除き、原則として、13.2平方メートル以上とされている。

問題 149 救急処置に関する次の語句の組み合わせのうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 熱傷-----3-3-9度方式--水で冷やす
- B 意識障害--气道確保-----保温
- C 顔面蒼白--仰臥位-----頭部を高く
- D 誤嚥-----咳-----背部叩打法

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 150 排泄介護に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 下肢筋力の衰えた利用者が部屋からトイレまで安全に移動できるよう手すりを付ける。
- B 虚弱高齢者のトイレは、和式便器にする。
- C おむつ交換時は、利用者の羞恥心に配慮して終始無言で行う。
- D ポータブルトイレは、利用者の安全を考慮して、安定性のあるものを選ぶ。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | ○ | ○ | × |